芝浦工業大学柏高校　2027年入試出題傾向

【注意点】
・前期入試期間に1回・2回入試のみを実施。GL（ジェネラルラーニングクラス）は3教科（国数英）で判定。GS（グローバル・サイエンスクラス）は原則5教科（国数英理社）で判定。ただし3教科でも上位はGS判定します。
・試験は国・数・英・理・社ともに、試験時間は50分で解答はマークシート方式。
・受験者平均点は、国英数は60％強程度、理社は70％台を想定して問題を作成しています。また、出題範囲は原則として千葉県の公立高校の入試に準拠します。
・3 教科（国数英）に関しては、思考力を問う問題を出題しています。（下記参照）

【高校入試における本校の思考力の捉え方】
　各教科特有の見方・考え方を通して、複雑な課題を適切に解釈し、基礎的・基本的な知識及び技能を活用することで、課題に対して粘り強く向き合い、解決するための思考力や判断力を重視する。

国語：文章の展開を的確に捉え、批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について読み取る力。
数学：基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見出し統合的・発展的に考察する力。
英語：語彙，表現，文法，言語の働きなどを理解するとともに、コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，情報を整理しながら論理的に解釈する力。

・出願時に英検2級以上取得申告者は、英語の試験は必ず受験しますが、優遇措置を受けられます。
・当日の試験に加え調査書の評定を一定の割合加算し、合否判定を行います。

【国語】（50分100点）
　1 論説文　2 小説（随想）3 古文
　論説文・小説は段落・場面ごとに内容を整理しながら読み、根拠を必ず本文中に求めるようにしてください。古文については、主語（動作主）を意識しながら読むことをこころがけておくとよいでしょう。

【数学】（50分100点）
　1 小問集合　　2 二次関数　　3 場合の数と確率・データの活用　　4 平面図形　　5 空間図形
　幅広い分野から出題をしています。
　※大問3は場合の数と確率分野、データの活用分野の両方から出題します。
　全体として計算はやや難しめです。計算力が大切であると考えて出題をしています。作図や証明問題は出題していません。解答が0から9までの数字をマークする形式であるため、他教科に比べ、マークの数が多くなります。マークミスにはくれぐれも注意してください。過去問などでの対策が有効です。

【英語】（50分100点： リスニング約15分を含む）
　1～3 リスニング　　4～6 リーディング
　聞く力と読む力を満遍なく問う出題です。学習指導要領に準じていますが、過去に本校の入試で出題された単語、熟語、文法等が含まれている場合があります。

【理科】（50分100点）
　学習指導要領内で解ける問題を作成します。県立の問題とほぼ同じ難易度で物理、化学、生物、地学の4分野からバランスよく出題します。知識問題のみならず、実験に関する問題、計算問題なども出題しますので、それらの対策もしっかり行っておいてください。
　1 生物　2 地学　3 化学　4 物理 5 生物　6 地学　7 化学　8 物理

【社会】（50分100点）
　学習指導要領内で解ける問題、千葉県の公立高校入試問題とほぼ同じ構成で、地理、歴史、公民の3分野からバランスよく出題します。なお、総合問題はありません。マーク式の選択問題なので、語句選択もありますが、文章の正誤や理解を問う出題が中心となります。日々の学習から、内容の正しい把握・理解につとめてください。また、統計や地形図、図、表、写真などの資料を活用する出題も多く含まれます。教科書や副教材などの資料なども確認し、より深い理解を心掛けてください。
　1 日本地理　2 世界地理　3 前近代史　4 近現代史　567 公民

芝浦工業大学柏高等学校
2026年度高校入試分析

国語

全体を通して

第１回・第２回ともに「論説文」「随想または小説」「古文」の３題構成、および各回それぞれの設問も、問数・設問内容・レベルが同じになるように作られています。すべて選択式問題ですが、漢字の問題、傍線部の説明をふたつ選ぶ問題、登場人物の発言の内容を答える問題で差がついています。

差のついた問題について

基本的には、漢字や接続詞などの知識を問う問題、説明文などでは筆者の意図や構成を聞く問題、また本文全体の論旨や展開に関わる問題で差がつくようです。

また、今回は第一回の古文の後半の問題で軒並み差がつきました。これは時間配分の問題であるように感じます。次の日に行われる二回目ではその反省を生かして、古文では差がつかなくなっています。過去問題を解く時から時間配分を意識し、古文は比較的とりやすく時間も決まりますから、古文を先に解くなど順番もよく考えておくのがよいと思います。

漢字では第二回の⑤ジュウライ＝従来で差がつきました。選択肢は縦断、充足、渋滞、従事、懐柔です。選択肢を含めて、語彙力が必要になった問題だと思います。第一回の①カイム＝皆無も同様です。快挙、懐石、皆伝、怪異、回帰なのですが、語彙力が不足し、わからない言葉が出てきたのではないかと思います。日頃から、本文の中での読み、意味などを意識しておくことが重要です。

説明文では、一回目で、問６の筆者の意図を問う問題で差がつきました。ただ理由を考えるのでなく、筆者がなぜその内容をとりあげたかを聞いています。自分で考えることも大切です。同様に二回目では、段落相互の関係を聞く問題で差がつきました。段落の役割だけに着目するのでなく、内容を示すキーワードに着目し、要約のように考えていくことも大切です。また２回目の問８で論旨を聞いている問題も差がつきました。やや内容が難しかったのだと思いますが、何を伝えようとしているかはしっかり意識しましょう。

小説では第一回問４のふさわしくないものを選ぶ問題、第二回では、問３の心情理解の問題で差がつきました。ふさわしくない問題では、読みの多様性を求めています。本文の根拠が薄くても状況的にあり得るものはふさわしいものとし、逆にふさわしくないものは、本文に根拠を求めることができます。そういう意味では本文の表現をもとに心情を決めていくことが大切だと言えます。

古文の問題は、できるだけ文法や単語の知識がなくてもできるように作っています。全般的に平均点は高く、第二回では差がついていませんが、簡単な問題であるが故に、たどりつかないともったいない問題であり、時間が足りない、あるいは難しいとすると、合否を分ける可能性が高いので、時間配分や解く順番を工夫しながら落とさないようにすることが大切です。

漢字問題は、語彙力が重要です。文章中にある熟語の読みや意味を意識しましょう。

⑤ ジュウライ

ア 大陸をジュウダンする。
イ ジュウソクした生活を送る。
ウ ジュウタイに巻き込まれる。
エ 父は医療にジュウジしている。
オ 敵をカイジュウする。

① カイム

ア カイキョを達成する。
イ カイセキ料理を食べる。
ウ 技術のカイデンを許される。
エ この場所はカイイな伝承が伝わる。
オ 九十年代にカイキする。

答え ⑤ エ ① ウ

おまえじゃない。私は風間塵を選んだ。

そんな声を聞いたような気がして、D なんとも言えぬ嫌な痛みが胸を走り抜けるのを感じた。

息ができない。

亜夜は、頭の中が真っ白になった。

初めて味わう感情だった。全身を貫く、鋭いのにじくじくとした痛み。

喉の奥に苦いものを感じる。

なんなのだ、これは。神に選ばれし者が目の前にいるという確信が、どうしてこんな痛みをあたしに与えるの？

その答えは、とっくに分かっていたように思う——自分が音楽から逃げたと認めなかったこと。自分は音楽をやっている、人よりも深く理解できている、と心のどこかで自惚れ、周囲を見下していたこと。才能がない、二十歳過ぎればただの人、などと呼ばれるのを心の底では深く恐怖していたこと。

さまざまな考えが頭を過ぎり、なかなか胸の痛みの残滓（注5）は消えてくれなかった。

(4) 文章中に D なんとも言えぬ嫌な痛みが胸を走り抜けるのを感じた とあるが、このときの亜夜の心情の説明として**適当ではないもの**を、次のア～オのうちから一つ選びなさい。

ア 自分のすぐそばにピアニストとして理想的で完璧な資質を持つ塵がいることで、自分の価値がすっかりなくなったように感じて焦燥感を抱いている。

イ 塵のように自分にも音楽に対する強烈な感情があるのに、周囲から平凡な音楽家になったと思われるであろうことを嫌悪し、抵抗したい思いに駆られている。

ウ 過去に自分が挫折したという事実ときちんと向き合うことができないままここまできてしまい、今厳しい現実を突きつけられているのだと苦悩している。

エ 塵の実力に自尊心が打ち砕かれたことで、これまで自分を特別な存在だと思っていた傲慢さや周囲の人々への醜い感情を自覚し、いたたまれない思いを感じている。

オ かつてはもてはやされていた自分も、ピアニストとして特別な能力を有していたわけではなく、子どもにしては弾けるほうだったに過ぎないと評価されることにおびえている。

心情で、ふさわしくないものを選ぶ問題。
本文に明確に書いてあるわけではなくても、状況として正しいものは「ふさわしいもの」と考えます。
イの骨格は、「周囲に抵抗したい」となっており、その根拠となるような表現はありません。
「おまえじゃない」や「二十歳過ぎればただの人、などと呼ばれるのを心の底では深く恐怖していた」などがメインであることから考えます

(6) 文章中に E デジタル写真装置の画素数が少なく、過去の写真装置の再現性にははるかに及ばない とあるが、筆者がこの内容を取り上げた意図の説明として最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選びなさい。

ア デジタル写真装置の再現性が低いことを指摘して、わたしたちのイメージの認識を変化させたのは過去の写真装置よりも劣るデジタル写真装置の記憶のシステムであることを主張するため。

イ 現在のデジタル写真装置が過去の写真装置とは異なるシステムであることに着目し、より高度なのは過去の装置よりもデジタル写真装置の記憶のシステムであることを否定するため。

ウ デジタル写真装置の再現性について過去の装置との差や現状を取り上げて、わたしたちが正確に記憶するために必要になるのはデジタル写真装置の記憶のシステムであることを説明するため。

エ デジタル写真装置は再現性だけではなく記憶のシステムも過去の写真装置と異なることを示し、わたしたちの記憶の方法に近いものがデジタル写真装置の記憶のシステムであることを明確にするため。

オ デジタル写真装置の再現性は現在では改良されたことを指摘して、わたしたちのイメージの認識に影響を与えたものがデジタル写真装置の記憶のシステムであることを強調するため。

筆者がこの内容をとりあげた意図を聞く問題。理由の問題ではあるが、まずは何を主張したかを考え、何を書いて、何をどのように伝えるかを考えなければいけないので、直前直後の箇所を探すのでなく、まずは「主張」を考えることが大事。

答え　オ

(7) 文章中の段落相互の関係の説明として最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選びなさい。

ア 段落[1]・[2]・[3]・[4]で科学の考え方の一つを示し、段落[5]・[6]・[7]ではその考え方に対する反論の説明から科学のとらえ方に話題を発展させ、段落[8]・[9]・[10]・[11]で筆者の主張をまとめている。

イ 段落[1]・[2]・[3]・[4]で科学の考え方の一つについて長所と短所を示し、段落[5]・[6]・[7]では短所の根拠となる考えとともに科学のとらえ方を示し、段落[8]・[9]・[10]・[11]で全体の内容をまとめている。

ウ 段落[1]・[2]・[3]・[4]で科学の考え方の一つを紹介してテーマを示し、段落[5]・[6]・[7]では関連する考え方や複数の具体例とともに筆者の考えを示し、段落[8]・[9]・[10]・[11]では全体の内容をまとめている。

エ 段落[1]・[2]・[3]・[4]で科学の考え方の一つを示し、段落[5]・[6]・[7]ではその考え方に対する見方と反論について意見を示し、段落[8]・[9]・[10]・[11]では筆者がとる立場の見解をまとめている。

オ 段落[1]・[2]・[3]・[4]で科学の考え方の一つを取り上げ筆者の主張を示し、段落[5]・[6]・[7]では考え方への反論と科学のあり方を示し、段落[8]・[9]・[10]・[11]では改めて筆者の考えと根拠をまとめている。

段落相互の関係の問題は、一回目も差がつく傾向にある。段落の役割を表すような言葉にこだわるよりは、要約の問題と考えて、何を伝えようとしているかを中心に考えるとよい。その意味でも、とにかく、この文章は何を伝えようとしているか、何を書いているかを考えることが大切。

答え　ア

数学

全体を通して

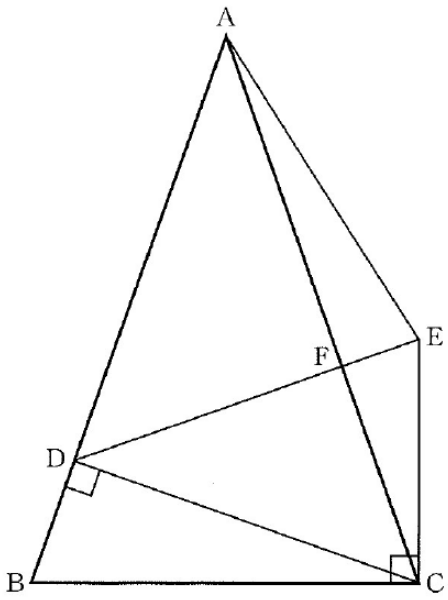
１小問集合、２二次関数、３場合の数・確率・データの活用、４平面図形、５空間図形 の５題構成で広い分野から出題をしています。例年、図形の問題や図形に関わる問題で差がつく傾向があります。

差のついた問題について

2026 年度入試の差のついた一問は平面図形の問題と空間図形の問題でした。差のついた平面図形の問題は第 1 回の 4 の(2)です。2 つの二等辺三角形について、ある三角形の底角がもう一方の三角形の底角と等しいことから 2 つの二等辺三角形が相似であることに気付けるかどうかがポイントです。気付くためには直角三角形に着目するなど図形を様々な視点で捉えられるかどうかが差を分けたと思います。差のついた空間図形の問題は第 2 回の５の(1)です。展開図において、ある３点が一直線上にくることに気付き、さらに正三角形が現れること、そして点 P がその三角形の重心であることに気付けるかどうかがポイントです。

第１回　４の問題

4　AB＝AC＝9 cm，BC＝6 cm の △ABC がある。
辺 AB 上に点 D を AB⊥CD となるようにとる。
また，点 E を CD＝DE，BC⊥CE となるようにとり，
辺 AC と線分 DE との交点を F とする。



(1)　BD＝ア cm

(2)　CE＝$\frac{\text{イ}\sqrt{\text{ウ}}}{\text{エ}}$ cm

(3)　AF＝$\frac{\text{オカ}}{\text{キ}}$ cm

(4)　△AEF の面積は △CDF の面積の $\frac{\text{ク}}{\text{ケコ}}$ 倍

差のついた　第１回　４の(2)の解説

AB＝AC であるから，△ABC は二等辺三角形である。

よって，二等辺三角形の 2 つの底角は等しいから

　∠ABC ＝∠ACB　……　①

同様に，CD＝DE であるから

　∠DCE ＝∠DEC　……　②

△DBCに注目すると　∠BDC＝90° であるから

　∠DBC ＝90°－∠DCB　……　③

また，∠BCE＝90° であるから，

　∠DCE ＝90°－∠DCB　……　④

③，④より

　∠DBC＝∠DCE

すなわち

　∠ABC＝∠DCE　……　⑤

①，②，⑤より

　∠ABC ＝∠ACB＝∠DCE ＝∠DEC

よって

△ABCと△DCEにおいて，2 組の角がそれぞれ等しいから

△ABC ∽ △DCE が成り立つ。

相似な図形の対応する辺の長さの比が等しいから

　AB：DC＝BC：CE

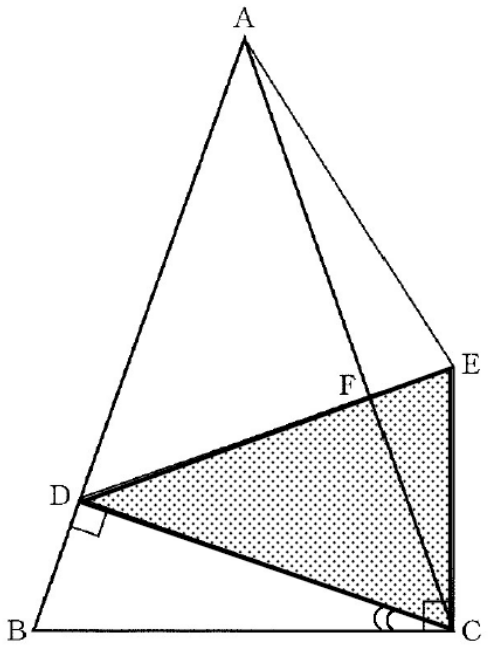
AB＝9 cm，DC＝ $4\sqrt{2}$ cm，BC＝6 cm であるから

　9： $4\sqrt{2}$ ＝6：CE

これより

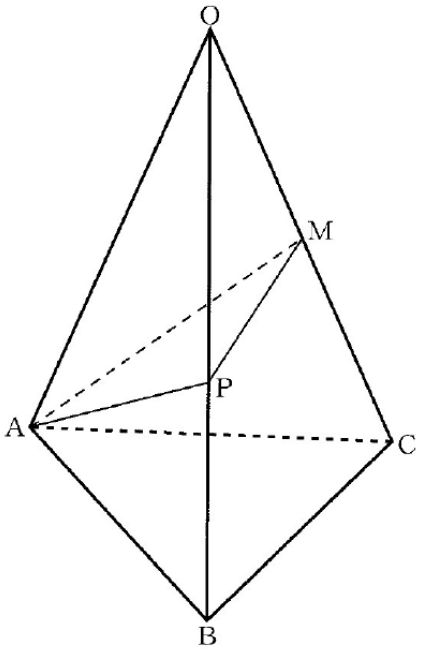
$$\mathrm{CE}=\frac{24\sqrt{2}}{9}=\frac{8\sqrt{2}}{3}\ (\mathrm{cm})$$

を得る。



第２回　５の問題

5　１辺の長さが６cm の正三角形 ABC を底面とし，OB を高さとする三角すい O－ABC があり，OA＝12 cm である。
辺 OC の中点を M とし，辺 OB 上に AP＋PM の長さが最も短くなるような点 P をとる。



(1)　MP＝ア$\sqrt{\text{イ}}$ cm

(2)　△AOP の面積は ウエ$\sqrt{\text{オ}}$ cm^2

(3)　三角すい O－ABC の体積は カキ cm^3

(4)　三角すい O－ABC を，３点 A，P，M を通る平面で切断したとき，頂点 B を含む方の立体の体積は クケ cm^3

差のついた　第２回　５の(1)の解説

正三角形 ABC を底面としたときの高さが OB であるから，∠OBA＝90°，∠OBC＝90° であり，OA ＝ OC である。

これ以降の説明は，すべて展開図に対する記述である。

点 A，B，C は一直線上にあるから，△ OAC は正三角形である。また，辺 AC，OC の中点がそれぞれ点 B，M であることから，線分 OB，AM は△ OAC の中線である。

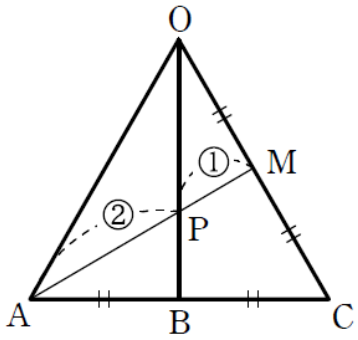
よって，点 P は中線 OB と中線 AM の交点であるから，点 P は△ OACの重心である。したがって，重心 P は中線AM を2：1 に内分する。△ AMOにおいて，

OM:OA:AM＝1:2:$\sqrt{3}$ であり，OA＝ 12 cm であるため，

AM＝ $6\sqrt{3}$ cm を得る。したがって

$$MP=\frac{1}{3}\times AM=\frac{1}{3}\times 6\sqrt{3}=2\sqrt{3}\ (\text{cm})$$

となる。



展開図の一部

英語

全体を通して

第１回、第２回ともに、大問４と大問６での苦戦が目立ちました。大問４は文章が論理的かつ自然な流れになるように文を埋める問題です。選択肢が１つ余る形式であるものの、１箇所のミスが連鎖的な失点につながる恐れがあります。一方、大問６は物語文で、登場人物のセリフを含め、全体のストーリー展開を正確に把握できているかが重要です。

差のついた問題について

高校前期１回　大問６ (5)

(5) Mother had to go out almost every day, (　　).
ア because she helped Father to get ready for his business trip
イ and she felt unwell and was sick in bed for a couple of days
ウ but she answered all her children's questions about Father's job
エ and she promised that she would tell the reason for her behavior

Everything was horrible for some weeks. Mother was nearly always out. Ruth, the maid, went away. Then Mother went to bed for two days, and the children wondered if the world was coming to an end.

解説

第２文に"Mother was nearly always out."（母はほとんどいつも外出していた）とあり、設問がこの場面について問うていることがわかります。続く第４文には、"Then Mother went to bed for two days, and the children wondered if the world was coming to an end."（その後、母は２日間寝込んでしまい、子供たちは世界の終わりが来たのではないかと不安になった）という記述があります。この「２日間寝込んだ」という内容と一致するため、イの"and she felt unwell and was sick in bed for a couple of days"が正解です。ここで使われている "a couple of" は、日本語の「カップル」から連想される通り、「２つの（２日間の）」という意味です。ただし、文脈によっては厳密に「２つ」ではなく、「２、３の」「数個の」というニュアンスで使われることも多く、日常会話における頻出表現の一つです。

高校前期２回　大問４(1)

New diseases sometimes develop, and these can become a problem very quickly. This happens (1). Some diseases can move from animals to people, and (2). When someone gets a disease, they may not feel ill for a few days, but in that time, they can give the disease to other people – (3), taking the disease to other countries.

ア when they are needed
イ it is difficult to protect people from a terrible disease like Ebola
ウ they can go from place to place very fast
エ because diseases can change and become more dangerous
オ and get on a plane and fly across the world
カ before it could go right across Africa and around the world

第１段落は、病気の蔓延というネガティブな内容です。空欄は「This（新しい病気が発生し、急速に問題化すること）happens...」という SV の直後にあるため、ここには発生の時、場所、理由、様態（when, where, why, how）を示す情報が入ると推測できます。エ「病気が変異し、より危険なものへと変化することがあるために」が、発生の背景を説明する理由として最も適当です。

その他の選択肢を検討すると、以下のようになります。

ア： they を New diseases と解釈すると「新しい病気が必要な時」という意味になり、文脈に合いません。

イ・ウ・オ： 文法的に成立しません。

カ：「アフリカ全土や世界中に広がる前に」という意味です。ここだけを読むと一見自然ですが、「発生」の直後に「広がる前」という内容が来るのは不自然（自明の理）であり、具体的な地域名が唐突に現れる点も疑問が残ります。

また、ここでアやカを選んでしまうと、本来それらが入るべき(4)(5)の空欄が埋まらなくなってしまいます。したがって、部分的な判断ではなく、文章全体を把握する力が必要です。

理科

全体を通して

１，２回入試いずれも生物・地学・化学・物理から２題ずつの８題構成になっています。生物・地学・化学・物理がまんべんなく出題され、2026 年度入試の合格者平均の得点率は１，２回ともに 83%以上でした。2027 年度入試でも同様の難易度で出題する予定です。よって、極端な苦手分野があるとボーダーラインに届きにくくなりますので、各分野バランスよく学習することが必要です。

差のついた問題について

例年、合格者と不合格者で大きく差がついているのは、計算問題です。

① ２段階にわたる計算問題

② グラフや表から読み取った数値を用いて計算に繋げる問題

2026 年度入試で差がついた問題例【１】・・・ ２段階にわたる計算問題

１回入試より 大問６（５） （正答率：合格者 65%、不合格者 47%）

資料２

地点 **Q** における，**資料１** とは別の日の９時と 15 時の天気，風向，風力を調べて記録した。**表１** は，その結果をまとめたものである。また，９時と 15 時の乾湿計を調べ，そのようすを**図２**に示した。

表２ は，湿度表の一部を，**表３** は，気温と飽和水蒸気量の関係をまとめたものである。

表１

	天気	風向	風力
９時	くもり	西	4
15 時	晴れ	西南西	3

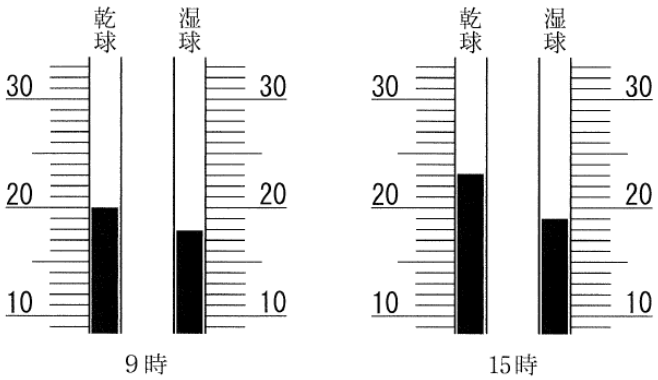


図２

表２

乾球の示度〔℃〕	乾球と湿球の示度の差〔℃〕					
	0.0	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0
25	100	92	84	76	68	61
24	100	91	83	75	68	60
23	100	91	83	75	67	59
22	100	91	82	74	66	58
21	100	91	82	73	65	57
20	100	91	81	73	64	56
19	100	90	81	72	63	54
18	100	90	80	71	62	53
17	100	90	80	70	61	51
16	100	89	79	69	59	50
15	100	89	78	68	58	48

表３

気温〔℃〕	11	13	15	17	19	21	23	25
飽和水蒸気量〔 g/m³〕	10.0	11.4	12.8	14.5	16.3	18.3	20.6	23.1

(5) **資料２**で，15 時に，容積が 80 m³ の部屋における空気の温度を 11℃まで下げたとすると，液体となって出てくる水は何 g であると考えられますか。 あ ～ う にあてはまる数字をそれぞれ答えなさい。ただし，答えは小数第１位を四捨五入して整数で答えなさい。

あ | い | う | g

（解説）

与えられた資料から情報を適切に読み取り、その情報を正しく・ミスなく計算して答えを求める、典型的な差がつく問題です。このレベルの問題をしっかり解き切ることが合格に近づきます。

15 時の乾湿計の目盛から乾球が 23 ℃、湿球が 19 ℃なので、表 2 から湿度は 67%と読み取れます。乾球の温度 ＝ 部屋の空気の温度になりますので、23℃の飽和水蒸気量 ＝ 20.6 g/m³ の 67 %が実際に含まれている水蒸気量となるので、20.6 × 67% ＝ 13.802 g/m³ となります。この空気を 11℃まで下げると、13.802 − 10.0 ＝ 3.802 g/m³ が液体となって出てくる水となり、最後にこの部屋の容積が 80 m³ なので、3.802 g/m³ × 80＝ 304.16g、となります（正解は　<u>あいう＝３０４</u>）。

今回は 2 段階以上の計算が求められ、かつ少数を含む値のため、落ち着いて計算しないと正解にはたどり着けなかったことかと思います。しかし、1 つ 1 つの計算はそれほど難しくはないので、ぜひ多くの練習問題をこなし、自信を持って解けるようにして入試に臨んでください。

2026 年度入試で差がついた問題例【２】・・・ ２段階にわたる計算問題

２回入試より　大問８(5)　　（正答率：合格者 89%、不合格者 71%）

実験２

① 電源装置，6.0Ω の抵抗器，電流計，コイル，木の棒，U 字形磁石を使って，**図２**のような装置をつくった。

② 電源装置のスイッチを入れて，A → B → C → D の向きにコイルに電流を流したところ，電流計が 1.0 A を示した。また，このときのコイルの動きを調べたところ，横から見たようすが**図３**のようになっていた，

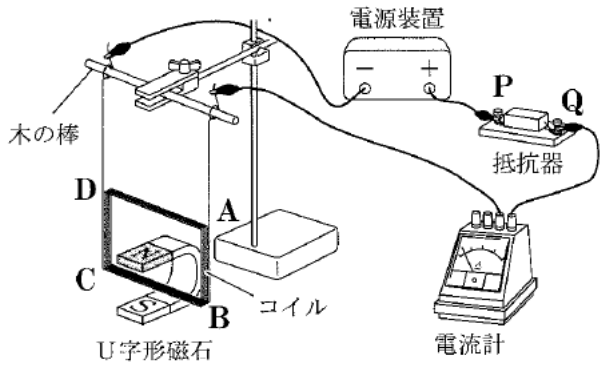


図２

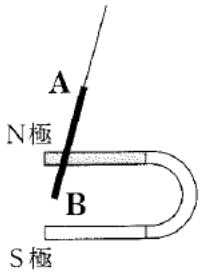


図３

(5) **図２**のPQ間に，6.0Ωの抵抗器のかわりに，10.0Ωの抵抗器と，抵抗の大きさがわからない抵抗器Xを並列につないで，それ以外の条件は**実験２**の②と変えずに実験を行ったところ，結果は**図３**と同じになりました。このとき，抵抗器Xの抵抗の大きさは何Ωですか。[あ] ～ [う] にあてはまる数字をそれぞれ答えなさい。

[あ][い].[う] Ω

（解説）

6.0 Ωの抵抗器のかわりに、10.0 Ωの抵抗器と抵抗の大きさがわからない抵抗器Xを並列につないだが、結果は変わらなかったことから、電流が磁界から受ける力の大きさが電流の大きさに比例するため、（５）にて抵抗器部分を変えたが、回路全体で電流の流れる大きさは変化しなかったと読み取れる。結果、10.0 Ωの抵抗器とXの抵抗器を並列にした際の合成抵抗は、元の抵抗器の6.0 Ωと同じでなければならない。
よって、

$$\frac{1}{10.0}+\frac{1}{X}=\frac{1}{6.0} \qquad X=15.0\ [\Omega]$$

このように、実験結果から状況を把握し、数値を読み取ったうえで計算する問題であった。

社会

全体を通して

社会科は、地理・歴史・公民全分野から出題されます。各分野を横断する総合問題の大問はありません。

千葉県の公立高校の入試を参考にして、基礎学力を問う出題を中心に構成していますので、まずは基礎・基本事項を丁寧に学習して入試にのぞんでください。ただし問題のレベルは、千葉県の公立入試の問題よりも難しい問題をいくつか含んでいます。社会科の問題傾向としては、文章正誤問題が比較的多く出題されます。暗記に頼るだけではなく、自分の知識=学習成果を活かして正解を導く作業が必要となります。日頃より内容・背景などの理解を十分に意識した学習につとめてください。

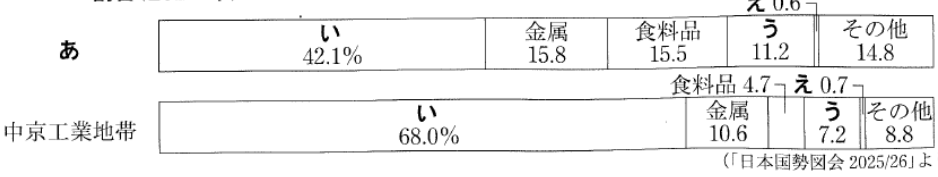
また苦手な分野があると、そこでの失点が大きくなりますので、苦手分野の対策も怠らないように心掛けて、３分野ともに満遍なく得点できるように準備してください。

差のついた問題について

地理分野　第１回　大問１（３）

(3)　次の**グラフ**は，地図中の **M** または **N** の地域を中心に広がる工業地域及び中京工業地帯の製造品別の出荷額割合をまとめたものであり，**グラフ**中の **あ** は，**M** または **N** の工業地域のどちらか，**い**～**え** は，化学工業と機械工業，せんい工業のいずれかである。**あ** にあてはまる工業地域の名称と，**う** にあてはまる工業の名称の組み合わせとして最も適当なものを，あとのア～カのうちから一つ選びなさい。

グラフ　地図中の M または N の地域を中心に広がる工業地域及び中京工業地帯の製造品別の出荷額割合（2022 年）



（「日本国勢図会 2025/26」より作成）

ア　**あ**：北関東工業地域　**う**：化学工業　　イ　**あ**：北関東工業地域　**う**：機械工業

ウ　**あ**：北関東工業地域　**う**：せんい工業　　エ　**あ**：瀬戸内工業地域　**う**：化学工業

オ　**あ**：瀬戸内工業地域　**う**：機械工業　　カ　**あ**：瀬戸内工業地域　**う**：せんい工業

合否差 19%となっており、地理部分で最も差がついた問題です。全体正答率も 42%と低くなっています。

地図の中で位置を理解できているか、それぞれの工業地域の特徴や傾向（何を中心に生産が進められているか）をグラフや統計の中から読み取る問題です。工業地域の名称や、それぞれでさかんな工業分野について、語句や文面で覚えるだけでなく、地図や統計と組み合わせて学習をしてきたかどうかが問われた問題ではないかと考えます。

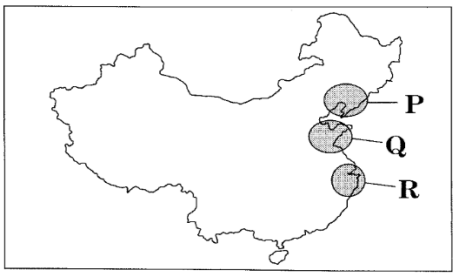
地図中のＭは北関東工業地域（群馬・栃木・茨城）、Ｎは瀬戸内工業地域（岡山・広島・山口など）を示しています。グラフにおいて、中京工業地帯で 68.0%を占めるのは自動車をはじめとする機械工業なので、「い」が機械工業。「う」か「え」のいずれかが化学工業、せんい工業になりますが、せんい工業は近年、国内での生産が縮小していることから、「う」が化学工業、「え」がせんい工業となります。２つの工業地域のうち、「い」の機械工業が４割強を占めるのは北関東工業地域、瀬戸内工業地域は化学の占める割合が高いなどを判断材料にし、正解はアとなります。

このように地図や統計を組み合わせた問題に対応する上では、日頃から地図の中で国名と位置をしっかりと把握すること、教科書や参考書に出てくる用語や事実が、統計やグラフの中でどのように表れているのかを意識すること等を心掛けて、学習を進めることが大切です。地図帳を手に届くところに置き、分からない地名や確認すべき統計が出てきたとき、その場で確認する習慣を付けてください。

地理分野ではこのように図表やグラフから情報を読み取る問題が出題されます。時間を要しますが、あまり一つに時間をかけ過ぎないよう、配分には十分気を付けてください。１つ１つの細かい情報を見落とさず、特に凡例は確実にチェックして解いてほしいと思います。

歴史分野　第１回　大問４（３）

(3)　カード **B** 中の下線部 **c** に関連して，次のⅠ，Ⅱの文は，山東省に関することがらについて述べたものである。Ⅰ，Ⅱの文の正誤と，山東省の位置を地図中の **P** ～ **R** から選んだものの組み合わせとして最も適当なものを，あとのア～カのうちから一つ選びなさい。



Ⅰ　第一次世界大戦で，日本は中国の山東省にあったドイツの根拠地(租借地)を攻撃した。

Ⅱ　第一次世界大戦後，日本が山東省の権益を得たことに対し，中国では義和団事件が起こった。

ア　Ⅰ：正　Ⅱ：正　地図：**P**　　イ　Ⅰ：正　Ⅱ：正　地図：**Q**

ウ　Ⅰ：正　Ⅱ：誤　地図：**Q**　　エ　Ⅰ：正　Ⅱ：誤　地図：**R**

オ　Ⅰ：誤　Ⅱ：誤　地図：**P**　　カ　Ⅰ：誤　Ⅱ：誤　地図：**R**

この問題は合格者の正解率は５６％とやや低めですが、合格者と不合格者では１７％も正解率が開いた問題です。

この問題の正解率が開いた理由として、以下の３点が指摘されます。

１つ目は、近現代史の問題ということです。幕末以降の近現代史は、事象・背景なども複雑になり、江戸時代以前と比べると正確に理解するためには、時間も労力もより必要とされます。また学校によっては、歴史後半の学習部分のために、残された学習時間が限られてくることから、授業内容が簡単になったり、省略されたりすることもあると聞いています。しかし、本校では現在に直結する重要な時代と認識して、近現代史で大問を設定しています。また第二次世界大戦後の現代史まで出題します。近現代史の学習はそれ以前の時代よりも労力を要しますが、丁寧な学習を心がけてください。

２つ目の理由は、日本と外国との関係を示す対外関係史・外交史の分野だからです。中学の歴史では、日本史を主としながら、外国に関する歴史も学習しますし、またとくに江戸時代後半以降、日本と外国に関する学習も増えてきます。外国が関係するテーマ問題は、正解率が低くなる傾向にありますので、外国史や対外関係史・外交史の部分は丁寧な学習が必要です。このほかにも、社会・産業・文化・学問などのテーマ問題も差がつきやすい傾向になりますので、内容の理解につとめてください。

最後の理由は、地図を使った問題ということです。歴史においても、事象が起こった場所などは重要になりますので、地図で確認する問題を出題することがあります。また図像なども使います。教科書・参考書の内容だけではなく、教科書や副教材に掲載されている地図・写真などにも注意をはらってください。

本校の歴史の入試問題は文章正誤問題が多く出題されますので、単純な暗記などでは対応できまぜん。内容の理解度にまでおよび問題が中心となっています。歴史の事象・内容・理由・背景などまで理解度を高める学習を心掛けておいてください。

この他の問題形式では、時代の並べ替えも差がつきやすい傾向にあります。本校では年号を直接出題する問題は出題しませんが、歴史なので流れは大切ですので、時代の並べ替え問題は出題します。時代の流れも意識して、日常の学習を深めてください。

公民分野　…　第２回　大問６（２）

(2)　下線部 b に関連して，2025 年になってアメリカ合衆国は，多くの品目の関税の税率の引き上げを行った。次のⅠ～Ⅲの文は，関税について述べたものである。Ⅰ～Ⅲの文の正誤の組み合わせとして最も適当なものを，あとのア～カのうちから一つ選びなさい。

Ⅰ　アメリカ合衆国がある品目の関税を引き上げると，アメリカ合衆国の国内でその品目の価格は通常上がる。

Ⅱ　アメリカ合衆国がある品目の関税を引き上げると，最終的にその関税を負担するのはその品目を輸出する国の政府である。

Ⅲ　日本で関税は，直接税に分類される。

ア　Ⅰ：正　Ⅱ：正　Ⅲ：正　　イ　Ⅰ：正　Ⅱ：正　Ⅲ：誤　　ウ　Ⅰ：正　Ⅱ：誤　Ⅲ：正

エ　Ⅰ：正　Ⅱ：誤　Ⅲ：誤　　オ　Ⅰ：誤　Ⅱ：正　Ⅲ：正　　カ　Ⅰ：誤　Ⅱ：正　Ⅲ：誤

正答率が 37%と低く、なおかつ合否差 14%と公民の問題の中で最も差が開いた問題の一つです。正答率が低いことから、この問題に正解した人は他の受験生を引き離すことで合格を勝ち取れた問題だったと言えるでしょう（一方で、正答率が高く合否差が高かった問題は、１回、２回ともにグラフの読み取り問題でした。それらは「落としてはいけない問題」だったということができます。）。

この問題で差がついた要因は二つ挙げられます。一つ目は問題形式です。一般的な四択形式などと異なり、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ三つの文の正誤を判別しなくてはならない問題です。消去法が使えずⅠ・Ⅱ・Ⅲの全てについての正確な判断が求められます。本校の高校入試の問題は公立高校の入試に模しつつも、点差をつけるため、このような問題形式が少なくありません。学習事項全般にわたってあいまいな部分を残さず正確に理解しつくすよう心掛けてください。

二つ目の要因は、問題内容です。Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの文はすべて関税について述べたものです。教科書や参考書で関税について、関税を上げるとどうなるか、関税を負担するのは誰であるか、関税は直接税か間接税かという細かい説明がなされていることは多くないでしょう。教科書や参考書をただ暗記する勉強をしていたのでは対応できなかっただろう問題です。しかしこの問題は、関税とはどのようなものであるかの具体的なイメージさえ持ててさえいれば難しいとは感じられなかったろうと思われます。関税とは、輸入品に対して輸入国がかける税金であり、輸入品は関税分の代金が上乗せされて販売されます。関税が上がれば輸入品に上乗せされる代金があがるためⅠは正文と判断でき、関税分はその輸入品の代金として輸入先の消費者が負担するのでⅡは誤文であり、関税は消費税と同様に消費者が負担する間接税であるとわかるのでⅢも誤文と判断できます。

関税自体について教科書参考書が集中的に取り扱うことはあまりないでしょう。しかし大切なことは、関税について理解を深めるチャンスは実はたくさんあったということです。関税は歴史分野でも幕末、明治時代に「関税自主権」として登場します。「関税自主権」とは何か、きちんと理解しようとしていれば、そこで関税のイメージをつかめます。さらには、2025 年はアメリカのトランプ大統領による関税引き上げがニュースで大きく取り上げられた年でした。そのようなニュースに触れて、関税とはどういうことか理解しようとすれば、同じく関税のイメージをつかむことができたでしょう。

歴史・地理・公民の垣根を越えて分野横断的に知識を結び付けて学習できているか、世の中で起きていることに関心を持ってそれを学校での社会科の学習に関連付けて理解を深められているか、そのような学習姿勢の差が、合否差の差として端的に現れたのがこの問題であったと思われます。

社会科を単なる暗記科目にせず、具体的なイメージを持って自分自身の頭で理解していく姿勢で学習に取り組んで欲しいと思います。